

のも一つの方法である。

仲吉 正 議員



質問 1 新しい姉妹町との縁組について

本町は、江府町と昭和54年から「海と山の交流」として、姉妹町の盟約を結んでいる。

今年から中国横断自動車道尾道／松江線が開通し、交流拡大・賑わいが期待されている。これを機会に芸術文化の交流、児童・生徒の交流を目的とした「島と島の交流」など、新ルートに新姉妹の縁結びを求める件についてお伺いする。

回答 町長

現在本町では、江府町以外でも大阪堺市の晴美台や鳥取県琴浦町など

との地域間交流、またロシア沿海地方との民間交流など、特定分野での交流も行われているように、必ずしも姉妹提携という形にこだわる必要はないと思っている。

中国横断自動車道尾道／松江線の開通で交流拡大は期待できるが、現時点ですぐに近隣の自治体、島々と姉妹提携に結び付けることは、なかなか難しい。

しかしながら将来的には、音楽・芸術文化、観光、あるいは児童・生徒の交流など、特定の分野でのつながりが生まれ、そうした状況が広がって姉妹提携に至る可能性がある場合には、検討していきたい。

質問 2 「六曜迷信」について

「六曜」の配当ルールは、旧暦の毎月1日を固定し、以下「六曜の順番」に従って月の終わりまで繰り返すもので、科学的な根拠はないが公共事業の竣工式等でもこの迷信が生き残っているように思われる。例えば、3月27日（大安）いそかぜ竣工式、4月2日（大安）光ネット開通式、6月6日（先勝）別府港フェリー第二ターミナル竣工式などが行われた。

この件について所見をお伺いす

る。

回答 町長

私達の地域では昔から祝い事は、良い日と言われる日に行うのが通例となっている。

また、そうした慣習があるにも関わらず、祝い事を行うのに悪いと言われる日を選んで行う必要もないと思っている。悪いと言われる日を選んで行った場合、当然のように反対の声がでるかと思う。

これまでどおり本町では、公共施設の竣工式など公式行事については、良いと言われる日を選んで行っていきたいと考えている。

西ノ島町議会

広報調査特別委員会

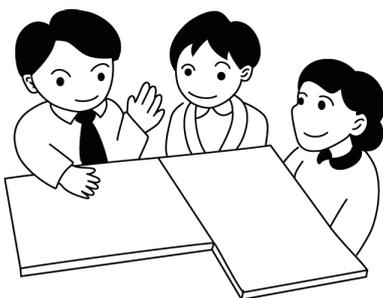
座談会開催のおしらせ

西ノ島町議会では、住民の皆さまのご意見、ご要望を伺い、町政に反映させるため、「住民との座談会」を計画いたします。

各地域、職場、各種団体等でご希望がありましたら、積極的に出かけていきますので、議会事務局(11(6)0101)までご連絡ください。

西ノ島町議会

広報調査特別委員会



島前高校だより

●地域創造コース

「地域学」 二年生

「地域学」は隠岐島前地域そのものを教材にした学校設定科目で、地域の優れた人材を講師に招き、地域の魅力や課題を学び、解決方法を探り実践します。

一学期は地域の課題や現在地域が行っている取り組みを紹介し、二学期以降に生徒は課題解決に向けて取り組んでいきます。

課題を認識し、解決のためにグループでアイデアを出しながら協働していくことは、現在社会で必要とされているスキルそのものであり、この授業を通して社会人基礎力を養っていくことを目指しています。

一学期は、島前の「自然分野」「歴史分野」「産業・経済分野」について学びます。先月号では、「島前神楽（歴史分野）」で学んだことを紹介しました。

産業・経済分野のねらい

隠岐島前地域では、現在第一次産業の後継者が不足し、島によっては専業農家がなくなるなどの状況になっています。

授業では、そのような島前地域の抱

える経済面での課題を示したうえで、これを打破するために各島がどのような政策を行っているかを紹介しています。

どのような課題であつても、アイデアを出して行動していくことで解決できる可能性があることや、課題解決の中で雇用が創出されていくなど副次的な効果が生まれることを伝えていきます。

島前地域の課題について様々な取り組みを行い、『ピンチをチャンスととらえる』ことができるような学びの場をつくっていくことができればと考えています。



《地域の方の感想から》

※産業・経済分野の授業の際、地域から授業を見に来てくださった方がいらっしゃいました。

私の時代には、高校の授業に「地域学」はありませんでしたので、興味津々で出かけました。

先生の実際のインタビューや体験を通して、学び・考えていく授業。思わず、私も手を挙げて答えたいくなるようなとてもよい授業でした。

私達もいろいろと活動しているのですが、今後のまちおこしの参考にすることができました。これからも、明確なターゲットを持ち、強いモチベーションを！

「地域学」という言葉だけ聞くと、とても難しい学習かと思いましたが、身近な例を題材にしていたので分かりやすく、もっと話を聞いていたいと思いました。勉強は机の上だけでなく、日常生活の中にも教材はあると思うので、離島ならではの利点を見つければ「島が元気になる」という発想につながると思います。



●「夢探求」

一年生

一年生の「夢探求」では、島前三町村の観光に携わる方々にお越しいただき、「三町村の魅力的な観光スポット」についてお話をうかがいました。

《生徒の感想から》

西ノ島にずっと住んでいるけど、自分が知らないことがいくつもありました。夏休みの課題で「明屋海岸に行ってみよう」と思いました。少しの時間でしたが、島前のたくさんの観光スポットを知ることができてよかったです。

この授業で学んだことを基に、夏休みに、一年生は「島前地域の行ってみたい場所に行ってみる。」という宿題に取り組みます。夏休み中に、地域を歩く島前高校生を見かけましたら、声をかけていただければ幸いです。よろしくお願ひします。

